

夢アイデアの提案

はじめに

日本の災害史

2016/4/14 熊本地震 (M7.3)
2014/9/27 御嶽山噴火
2011/3/11 東北地方太平洋沖地震&大津波 (M9.0)
2011/1/27 新燃岳噴火
2008/6/14 岩手・宮城内陸地震 (M7.2)
2007/7/16 新潟県中越沖地震 (M6.8)
2004/10/23 新潟県中越地震 (M6.8)
1995/1/17 兵庫県南部地震 (M7.3)
1993/7/12 北海道南西沖地震&大津波 (M7.8)
1991/6/3 雲仙岳噴火の火砕流
1986/11/15 伊豆大島噴火



自然の豊かさに恵まれる反面、**災害列島**という運命的な性格を背負っている。

地震や火山の噴火による甚大な被害

先日の熊本地震では...

まず、多くの人が地震が発生すると想定していなかった

●問題の発生

- ・情報、知識不足
- ・防災に対する備えの不足
- ・人員不足
- ・避難場所への経路がわからない
- ・対応はマニュアル通りにならない

この課題の解決に向けて

個人の防災意識を高め、「公助」のみに頼るのではなく、「自助」、「共助」の重要性について知り実践していくことが大切

災害意識の不足

準備不足

想定外の発生



夢アイデアの提案

学生を主体とした自主防災組織「護兵団」の設立

～熊本市を災害に強い都市に～

●自主防災組織について

巨大な災害時に減災を速やかに実施するためには、防災活動を行うことが必要不可欠である。しかしこのような活動は住民各自がばらばらに行動しても効果は少なく、場合によっては混乱をもたらすこともある。地域としての防災力を最大限発揮するためには、ある程度組織だった活動が必要になる。そこで、地域住民による防災活動を組織的かつ実効性のあるものとするために造られるのが自主防災組織である。

提案の概要

熊本大学、熊本学園大学、熊本県立大学、崇城大学等の熊本市の大学を中心に学生主体の自主防災団体を組織する。活動は主に週に1～2回の会議と、月に一度のイベント行事を基本とする。また、企業や地域の消防団と協力・連携することで、活動規模・範囲を広げ、地域の住民に幅広く知ってもらおう。イベントは地域の住民を対象に行うものとし、活動場所は適宜話し合って決める。



学生が活躍した事例



避難者の不満を聞いて回る学生の様子



学生による避難所運営の様子

既存の組織が震災直後自主的に高齢者の避難の誘導や、避難所の設立などを組織的かつ計画的に実行し大活躍した。

このような事例から、**起動力**および**即効性**に優れた学生が主体となり、地域の住民と自主的に防災活動を行うことで、災害に強いまちをつくらうというのがこの提案のねらいである。

実施するイベントの提案

「自助」の取り組みとして

- ・家具転倒防止モデルハウスの紹介
- ・過去の被災を忘れないための追悼イベント
- ・VRシステムを応用した被災の疑似体験
- ・組み立て式シャワーの実践
- ・建物の耐震補強



「共助」の取り組みとして

- ・非常食作りおよび配布
- ・クロスロードなどの防災シミュレーションゲーム
- ・避難所マニュアルの作成
- ・ワークショップやキャンプの実施

組織の関係図

